

麻生すこやか通信

VOL. 26

医療法人 札幌麻生脳神経外科病院 広報誌 2014年7月

新たなアザブミクスの 立ち上げ

理事長
斎藤 久寿



北海道には梅雨がないと言われてきましたが、6月は雨が降り続き、札幌では気象観測史上最長の長雨となりました。雨降って地固まる。札幌麻生脳神経外科病院は29年間しっかりと地固めをしてきました。

昭和60年の開設時、ワンストップでの診察・診断・治療を掲げ、当日中に結論を出すという信念のもと、遠方の患者さまにも喜んでいただくため、のろまな低磁場のMRI 1台と少人数の医師で、不眠不休で働いていました。

平成24年に新築移転し、広々とした廊下と病室が特徴で、中庭のあるリハビリ室には新たにスピーチセラピストも配置しました。また、3テスラの高磁場MRIを導入し、MR 4台が稼働しています。十余名の医師を配置し、ワンストップ診療のスピード、エビデンスに格段の進歩を遂げています。北大病院とは1.5kmの距離になり、より連携を深めています。

平成26年の春からは救急部のスタッフも増員し、24時間断らない救急医療に、更に磨きをかけました。厚労省の誘導もあり、これまでの急性期医療に加え、回復期リハビリテーション病棟を足がかりに、地域包括ケア病棟を進

めています。手術部には、新たな手術管理システムを導入予定で、時間と材料の無駄の徹底的な削減に挑戦します。

急性期の脳卒中治療はもとより、激しい痛みを伴う脊髄疾患、変性疾患の椎間板ヘルニア、新生疾患の脊髄腫瘍の的確な摘出などにも大きく翼を広げています。飛驒一利院長のもと、新しい麻生ブランドを創生していきます。私は、病院の差は職員のモチベーションの差だと思っています。当院の職員は、医療人としての意識が高く、Never give up=決して諦めない熱いハートをみなが持っています。そして、何より札幌麻生脳神経外科病院が大好きな人間の集まりです。「患者さまが困った時の札幌麻生脳神経外科病院」私の口癖でもあるこのスローガンは、地域医療のさらなる貢献に結びつくと信じています。

医療特区の新設、脳卒中の胚細胞治療、先進医療の保険外診療の是非が問われています。当院は、北海道大学大学院の関連施設として、連携講座での研修医受入れに加え、先進医療にも取り組みを始めています。この新たな取り組み、「アザブミクス」乞うご期待ください。

脊椎脊髄センター ドクター ご紹介



脊椎脊髄センター長 矢野 俊介

東京都出身。1995年北海道大学医学部卒。北海道大学脳神経外科入局。2001年脳神経外科専門医取得。2002年より北海道大学病院勤務を経て、2008年10月より当院勤務。2009年4月脊椎脊髄センター長就任。脊椎・脊髄、末梢神経疾患を中心とし、一般脳神経外科の診療や手術を専門とする。日本脊髄外科学会が認定する指導医。

脊椎脊髄専門医として、前任の秋野実元院長を引き継ぐ形で着任し、早いもので6年が経とうとしております。今年には医師となり20年目の節目の年、これまで皆様に支えられてきたことに深く感謝しております。

当院との関わりは、学生時代に患者として訪れたのが始まりでした。その後、平成12年から脳神経外科医として2年間当院に勤務し、脳神経外科が扱う脳血管障害・脳腫瘍・脊椎脊髄疾患について、それぞれ専門的知識・技術を習得させて頂きました。北大脳神経外科に戻ったのち、脊髄損傷・再生医療の研究、高度な技術を要する脊椎脊髄疾患の臨床を学び、現在に至ります。

脊椎脊髄疾患は、皆様もよく知っている椎間板ヘルニアや脊柱管狭窄症という病気から、脊髄腫瘍・脊髄損傷・脊髄血管奇形などの聞き慣れない様々な病気があります。これら脊椎脊髄疾患の難しさは、原因になる病気を取り除いても、ダメージを受けた脊髄や神経は、完全に元には戻らないところです。そのため、手術が成功しても症状が残ってしまうことがあります。なかでも

「痛み」は最もつらい症状であり、心も身体も苦痛を伴います。昨今、世界中が「痛み」の治療に力を入れ、新しい内服薬が次々と開発されています。しかしながら、それでも治療に十分満足できない「痛み」は沢山あるのが現状です。それを打破すべく当院では、2010年より脊髄刺激療法(下記参照)を導入しました。脊椎脊髄疾患において、症状を完全に取り除くことを最大の目標としておりますが、そのゴールには至っておりません。しかし、目標に向かい、手術や手術以外の方法を駆使し、日々診療の向上にチャレンジしていきたいと思っております。

私事ではありますが、半年ほど前からランニングを始めました。もともとスポーツは好きでしたが、走るのだけは苦手でした。膝や足首を痛めながらも、先日、生まれて初めての大会で完走することができました。チャレンジには苦労は付きものですが、得られるものに勝るものはありません。今後も公私ともにチャレンジしていきたいと思えます。札幌麻生脳神経外科病院脊椎脊髄センターをよろしくお願いいたします。

脊髄刺激療法

痛いところをさすると痛みが少し和らぐといった経験はありませんか?脊髄刺激療法はそれと同じことで、体内に心臓ペースメーカーのような機械を入れ、脊髄を刺激することによって「痛み」を他の感覚に変えてしまうというものです。機械を入れることで、今後MRIの検査ができなくなるのでは、と心配される方もおられるかと思いますが、それに対応した機械も開発され、更なる効果が高まっています。ご興味のある方は、お気軽にご相談ください。



© Copyright Medtronic, Inc.

当院における脊椎脊髄疾患手術件数

2011年	137件
2012年	150件
2013年	168件

2013年脊椎脊髄疾患手術実績

■ 頸椎 83件	■ 胸椎 1件	■ 腰椎 53件
■ 脊髄腫瘍、脊髄動静脈奇形	26件	
■ その他	5件	合計 168件

2014年4月新設

救 急 部

当院の救急部は2014年4月に新設されました。これまでは病棟と手術室のスタッフが交替で対応していましたが、このたび救急部として独立の運びとなりました。常に救急受けの専門スタッフとして稼働できるようになったことで、よりスムーズで質の高い救急受け入れができる体制を整えることができました。現在、看護スタッフ7名で日夜、救急患者さまの受診に対応しております。

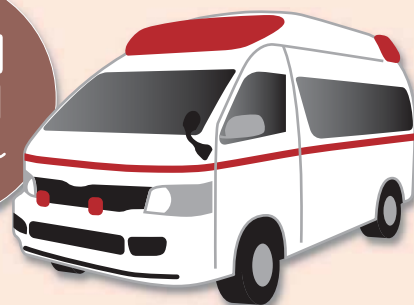
救急部は自宅からの救急搬送だけでなく、土日祝の時間外受診や近隣病院からの紹介など、脳神経外科の専門病院として24時間365日受け入れを行っています。「正しい知識と確実な技術で患者さまの命を護る」こと、「早期診断・早期治療の開始によって後遺症を最小におさえる」ことを使命とし、患者さまが少しでも早期に元の生活に戻れるよう、医師・検査技師・MSWと連携をとりながら支援をさせていただいております。



また、救急部にはBLS(一次救命処置)をはじめ、ACLS(二次救命処置)やISLS(脳卒中初期診療)といったコース受講修了者が5名おり、専門知識をもったスタッフも充実しています。

知識と経験豊富なスタッフが一丸となり、強みであるチームワークを生かして救急患者さまの看護にあたっておりますので、“もしもの時に頼れる病院”として、どうぞ当院救急部をご活用下さい。

24時間
365日
受け入れ



PICK UP!



救急部科長 久保 真樹

「患者さまに寄り添った救急対応を心がけています」

救急部科長の久保と申します。新しい部署の立ち上げに伴い、準備段階ではプレッシャーや苦悩がいくつもありましたが、スタッフのやる気と明るさに支えられ、何とか軌道に乗せることができました。

受診される患者さまの多くは、その突然の発症に驚かれ、不安な気持ちの中で救急搬送されてきます。患者さま・ご家族の不安な気持ちに寄り添うとともに、少しでも安心して検査・治療が受けられるようスタッフ一同対応してまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。

第3回

地域研修会を開講いたしました

平成26年6月11日(水)、当院5階食堂において、第3回地域研修会を開講いたしました。「脳卒中予防生活のポイントと健康寿命」と題して、品地智子副院長・看護部長が講師を務めさせていただきました。講座では、生活習慣を改善し長寿社会を謳歌することが脳卒中の予防につながることを強調し、脳卒中予防10ヶ条を紹介しました。大切なことは食生活の改善と適度な運動の継続ですが、言うは易く行ふは難しです。そこで、気軽にできる自宅体操で、股関節、骨力、大腿四頭筋の鍛え方を実演。今日から実践して健康寿命をさらに伸ばしていくことを参加者全員で約束し、研修会は幕を閉じました。朝から雨が降り続く悪天候の中、約40名の方が足を運んでくださり、有難うございました。今後の開催は、7月23日、9月10日、11月7日を予定していますので、お気軽にご参加ください。



当院の理念・方針・患者さまの権利

病院の理念

私たちは、常に「患者さま第一」を心がけます。

病院の方針

1. 高度先進医療の推進と実践
2. 地域医療への貢献、啓発と実践
3. 患者さまの権利擁護と尊重
4. 医療従事者、学生の教育と実習

患者さまの権利

1. 病気のことについて、納得いく説明を求めることができます。
2. 患者さまのプライバシー(全ての情報)は厳守されます。
3. 治療、検査、看護の同意について、患者さまの意思が尊重されます。

編集後記

当院では、地域住民のみなさまへ、病気と予防などについて幅広いテーマで『地域研修会』を開講しています。今回は「脳卒中予防生活のポイントと健康寿命」の様子をご紹介させていただきました。地域住民のみなさまはもとより、患者さま、ご家族のかたにもお気軽に参加していただきたいと思います。患者さまの笑顔が私たちの宝物です。

医療法人 札幌麻生脳神経外科病院

〒065-0022 札幌市東区北22条東1丁目1-40
TEL 011-731-2321(代表) FAX 011-731-0559
ホームページ <http://www.azabunougeka.or.jp>

交通アクセス

- 地下鉄: 南北線 北24条駅下車
(2番・3番出口から徒歩約7分)
- 中央バス: 「北21条東1」下車、徒歩約2分
- 中央バス: 「北24条東1」下車、徒歩約2分



携帯用サイト



当院への バス路線 中央バス

屯田線 02・新琴似線 09・あいの里・篠路線 22
篠路駅前団地線 34 36・ひまわり団地線 39
花川南団地線 14・花畔団地線 16・元町線 東70
石狩線・石狩線(トーマン団地行)・札厚線・札浜線(特急)

※お間違いないようご注意ください

- 往路と復路とで停留所の異なる路線があります。
新琴似線 09・花川南団地線 14・花畔団地線 16・石狩線・石狩線(トーマン団地行)
- バス停「北21条東1丁目」は旧石狩街道・石狩街道の2カ所あります。
- バス停「北24条東1丁目」は旧石狩街道・石狩街道・宮の森北24条通の3カ所あります。